

# 購買行動と買い物依存症との関連性についての予備調査からの考察

## A Reflection based on the Preliminary Investigation of the Relationship between Purchase Behavior and Shopping Addiction

福村 愛美

Manami Fukumura

### 1. 緒 言

現代病とも言える買い物依存症について、何が原因でどのような種類の物を買い過ぎてしまうのかという事を問題意識として考え、本調査の仮説を立てる資料として予備調査を行い、検討することを目的とした。買い物依存症は最近聞かれ始めた言葉であるが、依存症とまでいなくても、買い物好きな人は多勢いると思うし、大半は女性である。女性が熱心に買う物としては衣類や装飾品が中心であると考えられる。衣類や装飾品に対する購買行動と他の種類の物と比較しながら、さらに買い過ぎてしまう原因を考察する。

### 2. 調査方法

予備調査は、大分県立芸術文化短期大学に在学する満19歳から20歳までの女子学生40名を対象に、平成10年6月にアンケート調査を行った。調査方法は授業の終了後に調査票を配布し、その場で質問事項について記入してもらい回収した。有効回収数は39票で、回収率は97.5%である。調査項目は購入時、及び購入後の感情の動き、衣服購入の選択基準、幼少期の心理状態及び購買行動についてである。分析方法は単純集計及び、クロス集計結果から考察した。

### 3. 結果と考察

調査結果から図1の買い物が好きであるかについては、大半が大変好きか、まあ好きと答えていて、嫌いと答えた学生は1人もいない。また買い物をする時楽しいかについては、好きであると同様にほとんどの学生が楽しいと答えている。やはり現代の若い女性は買い物が好きで、かつ楽しいと考えている。図2は買い物をするストレスの解消になるかについては、まあ解消になると答えた人が一番多いが、どちらでもないと答えた人も次に多く、買い物が好きで楽しくても、必ずしもストレスの解消になるとは限らないと言える。図3は買った後、買った物を後悔する事があるかについては、時々後悔する事があると答えた人が一番多く、次にあまり後悔しないという回答が多くなっている。半数程度の人を買う時には、ほしいと思っけていても後でいらなくなり、お店に行けば何でもあるので、ついいらぬ物まで買ってしまふのではないかと考えられる。

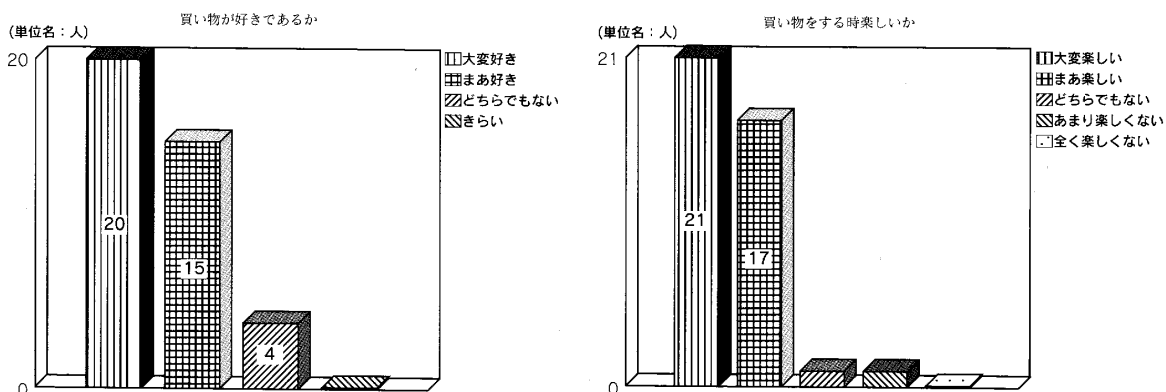


図1. 買い物が好きであるか、楽しいと思うか

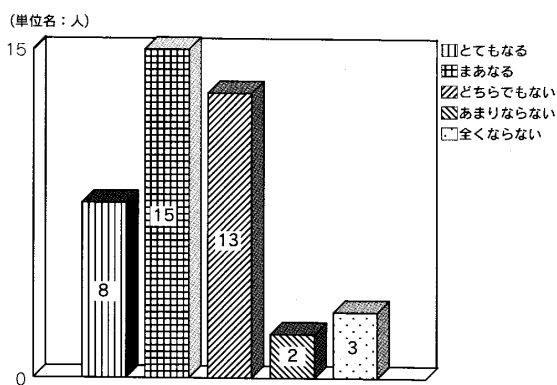


図2. 買い物をするとストレスの解消になるか

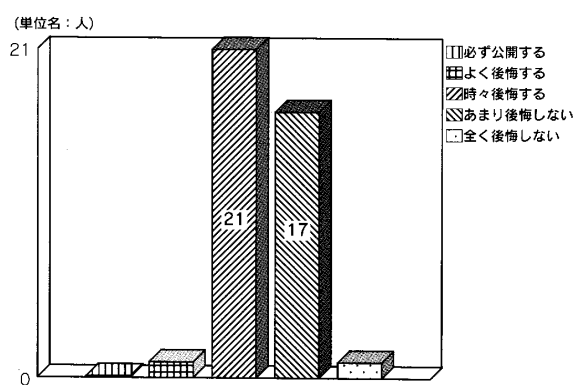


図3. 買った物を後悔することがあるか

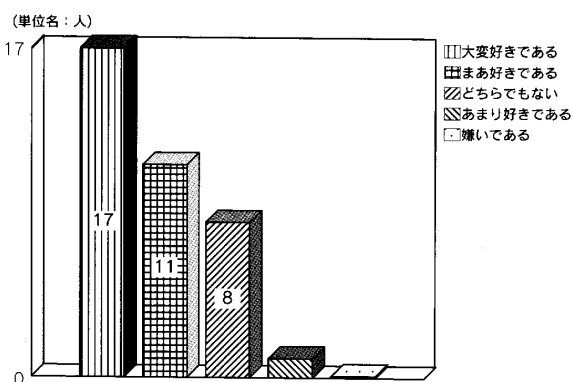


図4. 買った物を家で広げて見るのが好きか

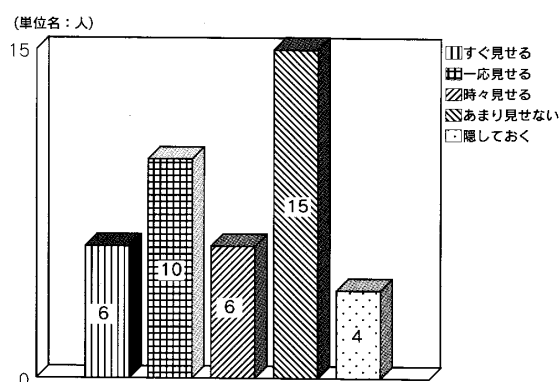


図5. 買った物を家族に見せるか

図5は買った物を家族にすぐ見せるかについてであるが、あまり見せないという人が一番多く、次に一応見せるという回答が多くなっている。理由としては自分で買った物は家族とは関係ないからという回答が一番多く、あまり見せないという人の理由と考えられる。見せるという人は、単純に見せたいからという理由が多くなっている。

購買行動と買い物依存症との関連性についての予備調査からの考察

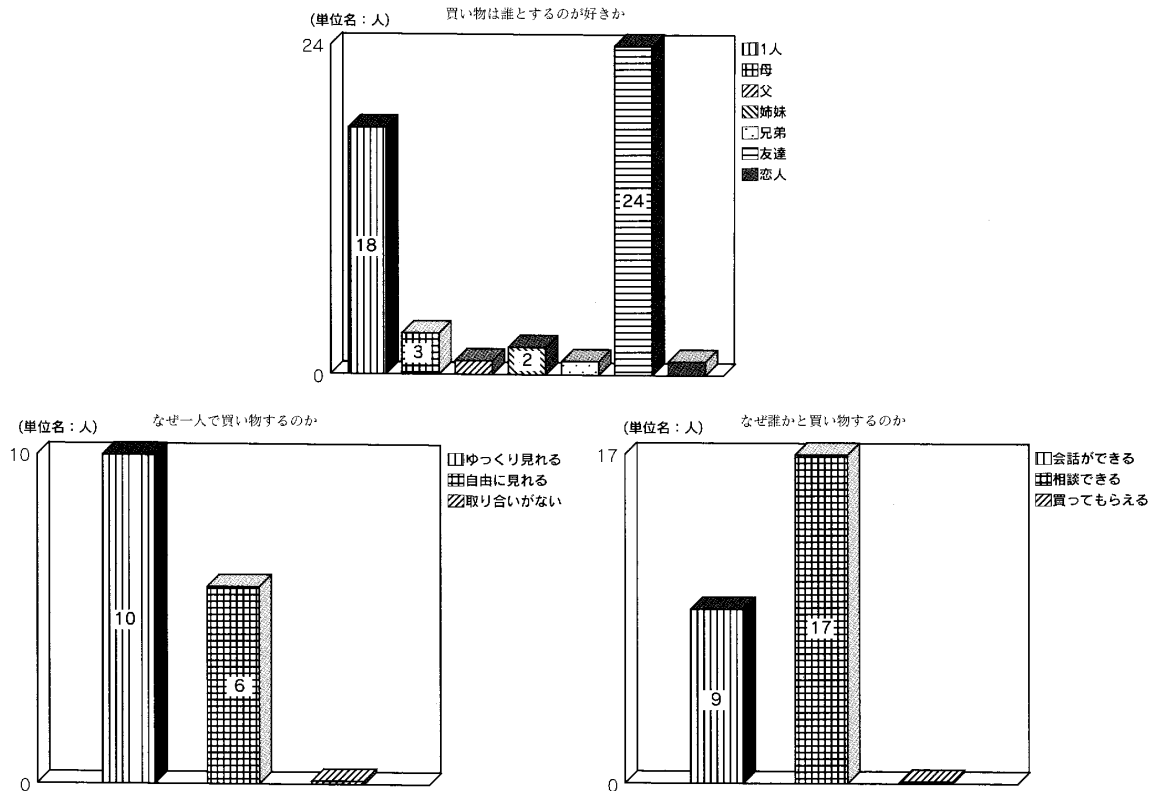


図6. 買い物は誰とするのが好きか

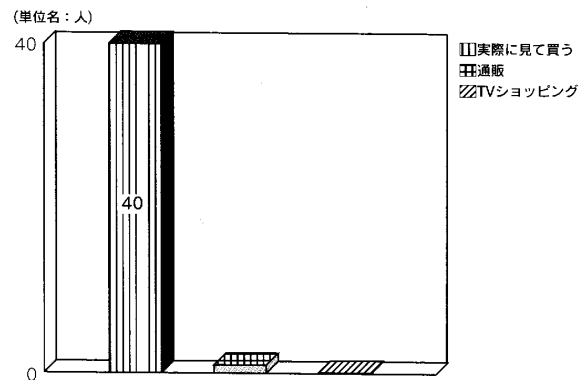


図7. どんな買い物の仕方が好きか

図6は買い物を1人でするのが好きか、又は誰かと一緒にするのが好きかどうかについてであるが、友人と一緒に買い物するのが好きというのが多く、理由は相談できるからと答えている。次に1人で買い物するのが好きと答えている人が多いが、理由はゆっくり見る事ができるからとしていて、その他の理由としても、人が一緒だと時間がかかると答えていて、買い物の時間を有効に使いたいと考えている。図7は買い物の仕方についてであるが、ほとんどの人が実際にお店で見て買うと答えていて、通販で買う人はほんの少数で、テレビショッピングは1人もいない結果となった。これは比較的時間のゆとりのある学生だからだと考えられる。

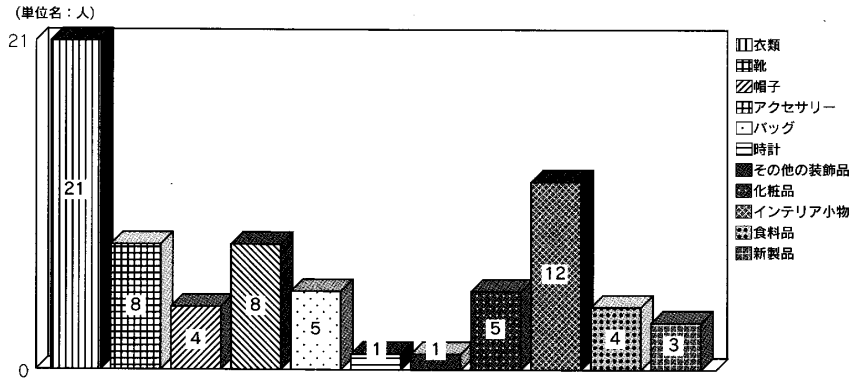


図8. どんな種類の物を買うのが好きか

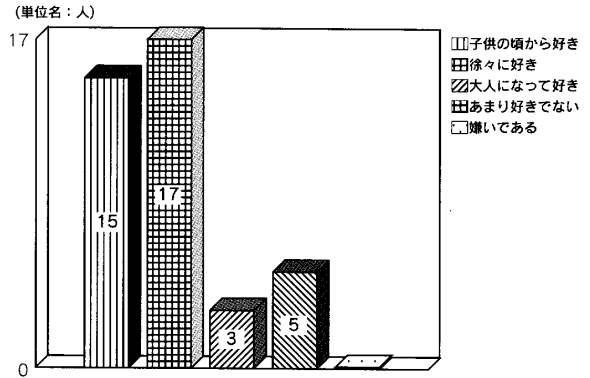
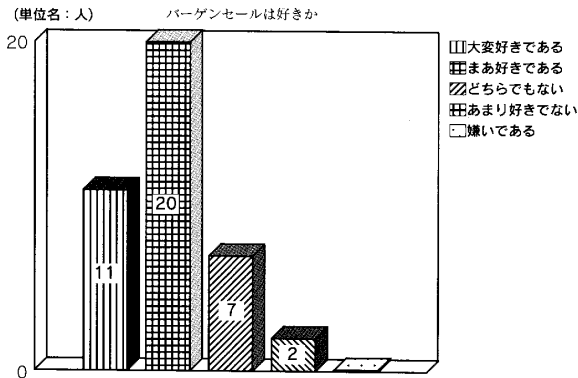


図10. 買い物をする事は子供の時から好きであったか

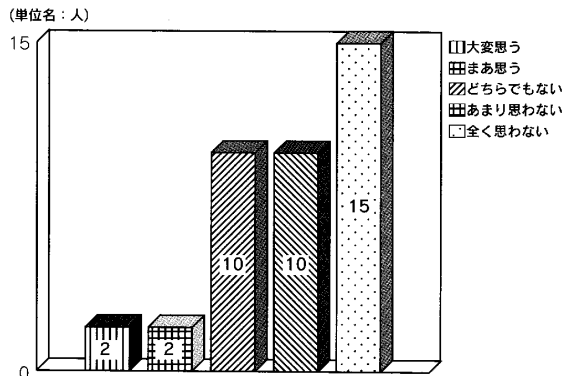
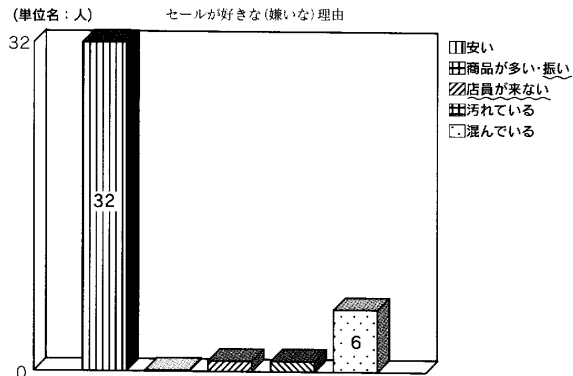


図11. 買い好きをやめたいと思うか

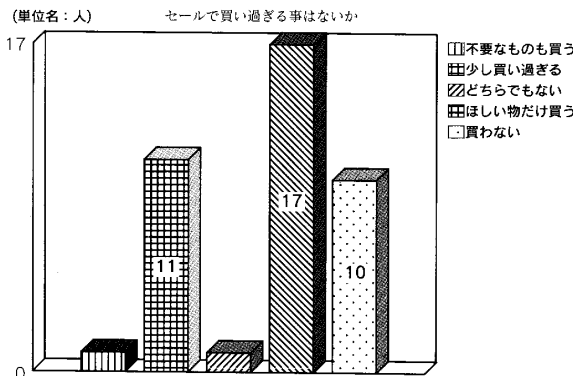


図9. バーゲンセールは好きか

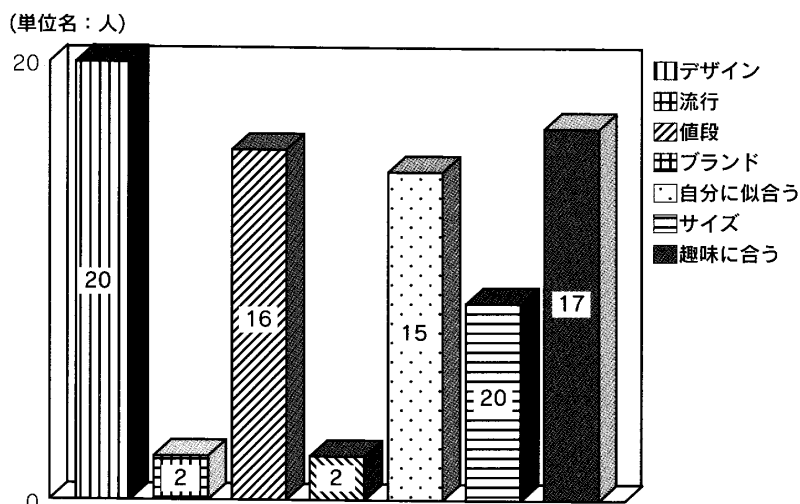


図12. 衣服を買うとき何を基準にするか

図8はどんな種類の物を買うのが好きかであるが、やはり衣服が一番多く、次にインテリア小物が多くなっている。他には靴やアクセサリなど身に付ける物が多くなっていて、若い女性は衣服や装飾品を買うのが好きであると言える。デパートなどもこの不況の中で女性の服飾フロアを増やしているというのも、女性の買い物好きを反映していると思われる。図9はバーゲンセールが好きであるかについてであるが、大半が好きであると答えている。好きな理由は安いからで、買い過ぎてしまう事はないかについては、ほしい物だけ買う人が多く、少し買い過ぎる人もいるけれど、全体的には安いからと言って買い過ぎて失敗する事はあまりないようである。図10は買い物をする事は子供の時から好きであったかについてであるが、子供の時から大変好きであったという人と、大きくなるにつれて好きになったという人がほとんどで、子供の時から買い物は楽しみではあるけれど、自由になるお金に制限があるので、大きくなるにつれてさらに好きになっていく傾向にあると言える。図11は買い物好きをやめたいと思うかについてであるが、全く思わないという人が多く、今回の調査対象者は買い物は好きでも買い物依存症の人はいないと考えられる。

図12は衣服を買う時何を基準にするかについてであるが、デザインで選ぶ人が一番多く、次に趣味に合うとか、値段や、自分に似合うかなどである。流行やブランドで選ぶ人は少なかったが、流行は意識していなくても、強く影響を受けていると考えられる。それは学生を見ると大半が流行の服装をしているからである。流行についての質問をすると、ほとんどの回答が流行は気にしないと答え、流行に左右されていると考えるのは嫌う様に思われる。図13は服を買った時、いつが一番楽しいかであるが、選んでいる時と、実際に着る時が一番楽しいと答えていて、また家で見るのも結構楽しいと考えている。図14は衣服を買う時は試着をしてから買うかどうかについてであるが、たまに試着するという人が一番多く、必ずしも試着するとは限らない事がわかる。衣服の場合着用してみないと似合うかどうかかわからないし、サイズも必ずしも合うかどうかかわからないのに意外であると言える。まだ若いので、試着すると買わなければいけないのではないとか、めんどくさいと考えているのかもしれない。図15は買ってもし着ない服があるかについてであるが、たまに着ない服があると答えた人が多く、買った衣服すべてを活用するのは、難しいと考えられる。

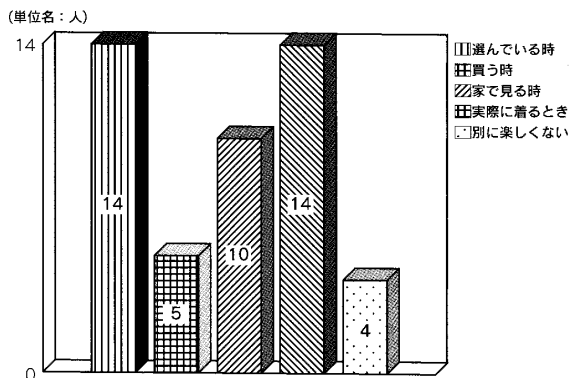


図13. 服を買ったとき、いつが一番楽しいか

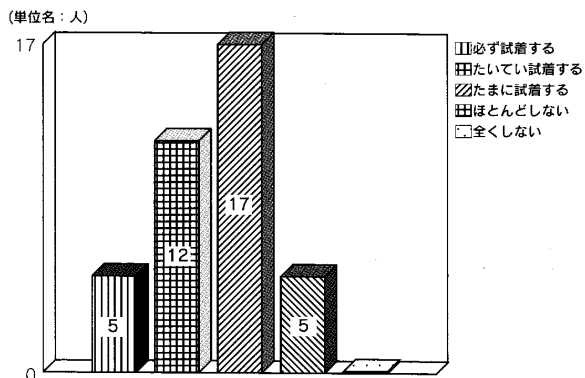


図14. 衣服は試着してから買うか

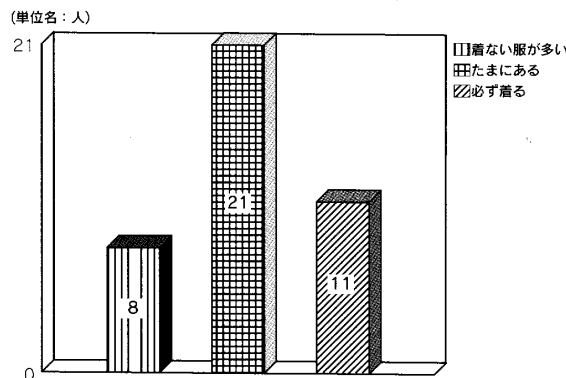


図15. 買ってもしない服があるか

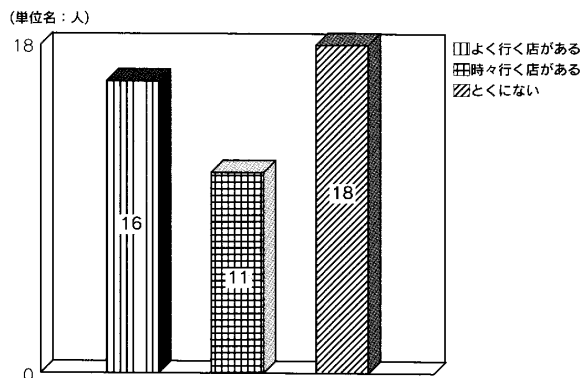


図16. 行きつけのお店があるか

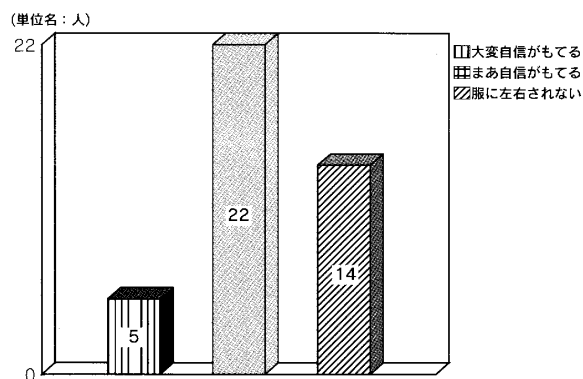


図17. 気に入っている服を着ていると自分に自信がもてるか

図16は行きつけの店があるかについてであるが、特にないという人も半数程度いるが、よく行く店があるという人も割と多く、学生でもすでに気に入った店がある事がわかる。また店員と話すのが好きであるかについては、どちらでもないという人が一番多いが、まあ好きであるという人が次に多く、行きつけの店で友達感覚で話すのが楽しいのではないと思われる。しかしあまり好きでない人や嫌いな人は、買うように進められて、自分の意思に反して買ってしまうのが嫌だからではないかと考えられる。図17は気に入っている服を着ていると自分に自信が持てるかどうかについてであるが、まあ自信が持てるという人が一番多く、服によって多少は気分が変わると言える。

購買行動と買い物依存症との関連性についての予備調査からの考察

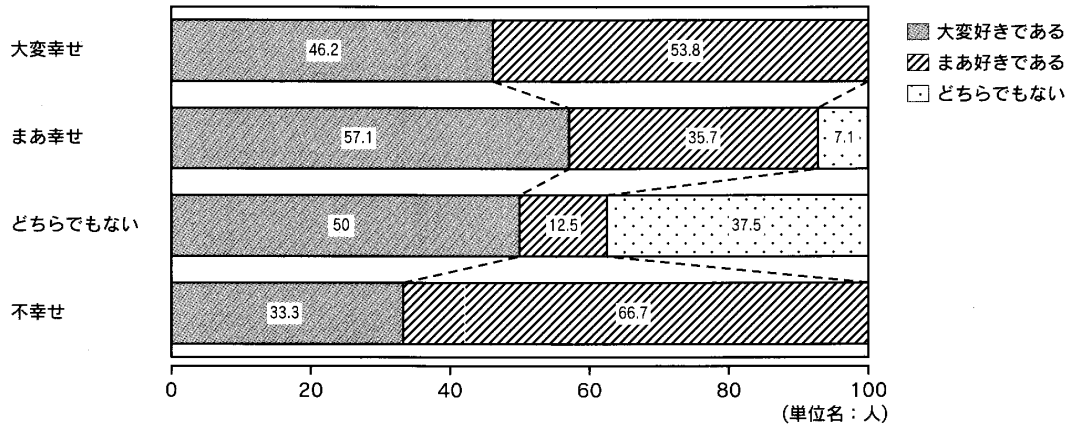


図18. 子供の時の幸せ度と買い物が好きであるかとのクロス集計結果

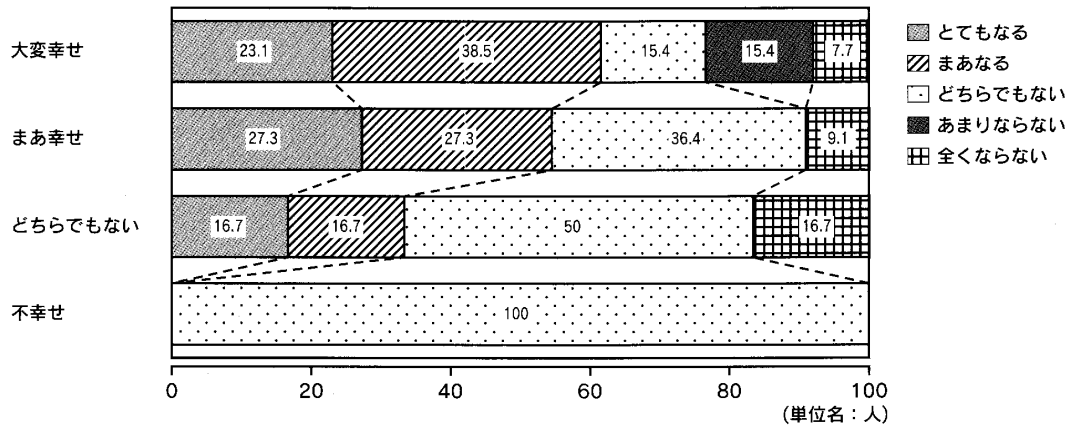


図19. 子供の時の幸せ度と買い物でストレス解消になるかとのクロス集計結果

図18は子供の時幸せであったかどうかと、買い物が好きであるかとのクロス集計結果であるが、大変幸せであった人は、買い物も好きであると答えている。逆にあまり幸せでなかった人も買い物を好きと答えていて、どちらでもないと感じている人は、買い物についてもどちらでもないと答えている。図19は子供の時幸せであったかどうかと、買い物でストレス解消になるかとのクロス集計結果であるが、幸せな人程、買い物がストレスの解消になると答えている。図20は子供の時幸せであったかどうかと、買った物を後悔することがあるかとのクロス集計結果であるが、まあ幸せであったと答えている人が、時々後悔する事が多いと言える。全体の集計でも時々後悔する比率が高かったので、まあ幸せだった人が一番一般的な傾向を示している。図21は子供の時のしつけの厳しさと、買い物の楽しさとのクロス集計結果であるが、厳しかった人程、買い物を楽しいと思っており、割と甘かった人の方が比較的楽しい比率が低いと言える。図22は子供の時、欲しい物が買ってもらえたかと、買った物を後悔するかとのクロス集計結果であるが、あまり関連性は見られなかった。子供の時ほしいものは大体買ってもらえた人が37.8%いたので、調査対象者は子供の時から物が氾濫していて、割と何でも買ってもらえた世代であると考えられる。

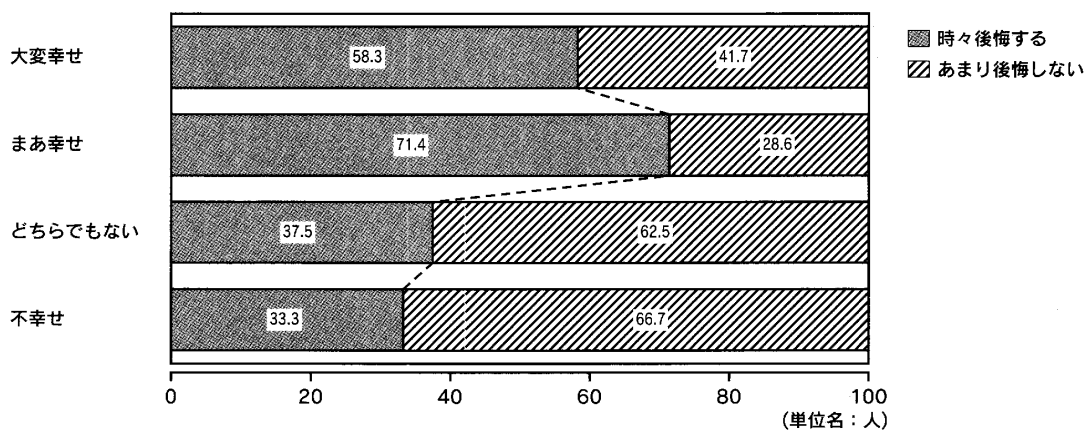


図20. 子供の時の幸せ度と買った物を後悔することがあるかとのクロス集計結果

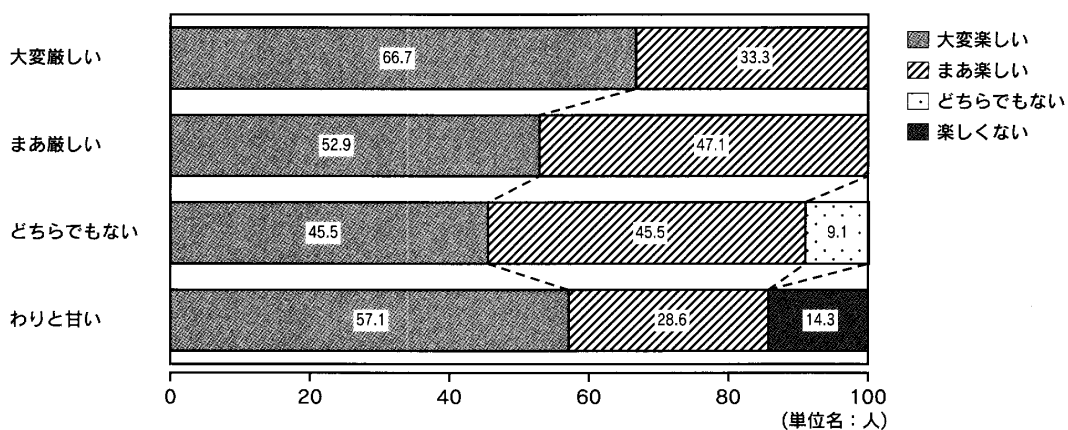


図21. 子供の時のしつけの厳しさ、買い物の楽しさとのクロス集計結果

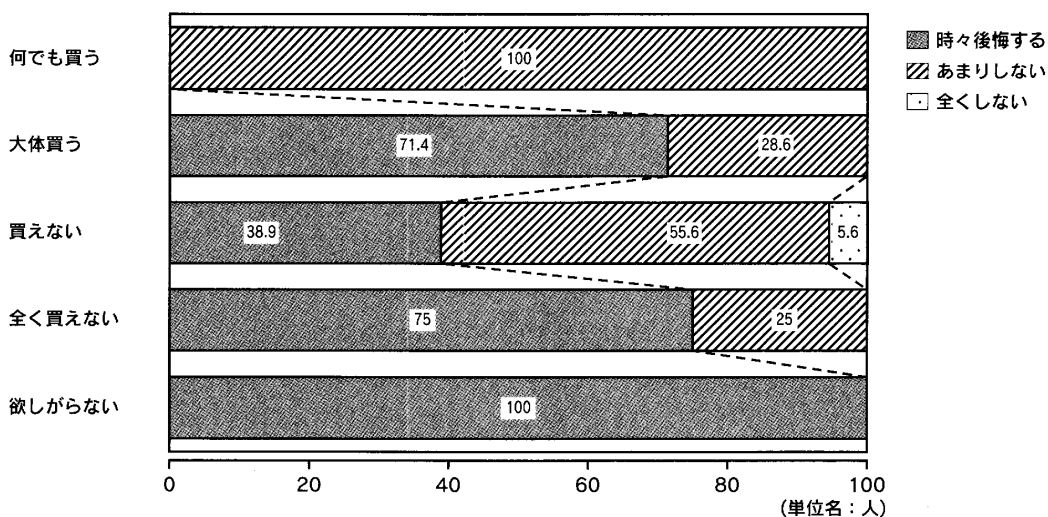


図22. 子供の時欲しい物が買ってもらえたか、買った物を後悔するかとのクロス集計結果



#### 4. まとめ

以上の結果から、買い物については大半が好きであり、楽しいと感じているが、買い過ぎてしまったり、後で後悔する事はあまりなく、今回の予備調査の調査対象者は、買い物依存症の傾向の人は特に見られなかった。また子供の頃も幸せであると感じている人がほとんどで、幼少時代の精神状態と買い物依存症との関連性を裏付けるのは、この予備調査からは推測できなかった。本調査では、調査項目で不足した質問項目を増やし、分析も数量化Ⅱ類などから、買い物依存症と幼少時代の精神状態との関連性をより深く追求したいと思う。

#### 引用文献

- 1) キャロリン・ウェッソン：買い物しすぎる女たち（斎藤学訳），講談社，東京，1～9（1992）